

[I 研究テーマ]

- ・日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深める表現と鑑賞の活動

[II 研究の実際]

- ・二年間の研究の期間に
 - ① 四季を愛でる心・もてなす心 ～オリジナルの和菓子をつくろう～
 - ② 浮世絵を砂絵で表現しよう
 - ③ 金色の屏風に絵を描こう
 - ④ 水墨画を描こう

これら4つの題材を通して、共通して育てたい生徒の資質や能力は「日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めること」である。

中学校美術科学習指導要領解説の第3章 各学年の目標及び内容 2 第2学年及び第3学年の目標と内容

B 鑑賞のウでは

日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と想像への関心を高めること。

という文言がある。

- ① 「四季を愛でる心・もてなす心～オリジナルの和菓子をつくろう～」

【1年目】

実際に和菓子の制作に入る前に、日本の伝統色について学んだ。パワーポイントでいくつかの伝統色を生徒に見せ、その名前の由来などを考えさせた。また、身近にある伝統色が使われているものを考える時間も設けた。和菓子と洋菓子の違いについて考えさせ、食べさせる人を「もてなす」にはどのような工夫が必要かを個人とグループで考えさせた。活発な意見交換が行われ、十分に生徒一人一人が自分が作る作品のイメージを持ってから作品制作に入れるようにした。また、完成予想図のアイデアスケッチの段階で細部まで詳しく考えさせて、食感や味に至るまで作品についてのイメージをより深めることができるように工夫した。

【作品】



【2年目】

1年目と同様に、始めに日本の伝統色についての学習を行った。パワーポイントを使って説明を行ったが、前年度と違ったところは、伝統色の由来をクイズ方式にした。最初に色のみを生徒に見せて、その色が何を由来にしているのかを生徒たちに考えさせた。解答を記入した後で正解の画像を生徒に見せ、理解を深める工夫を行った。前年度の課題として、簡単な三色団子や八つ橋などの安易な既存の和菓子を制作してしまう生徒が多いということがあった。アイデアスケッチの段階で、「オリジナル」ということを強調し、様々な和菓子のサンプルを見せて、想像力を深める時間を多く確保した。また、台紙も台+屏風というデザインに偏る傾向があったので、よりその和菓子を魅力的に見せることができる台紙が制作できるように一人一人にプラス1のアドバイスを行って、より良い台紙を作るための試行錯誤をさせた。

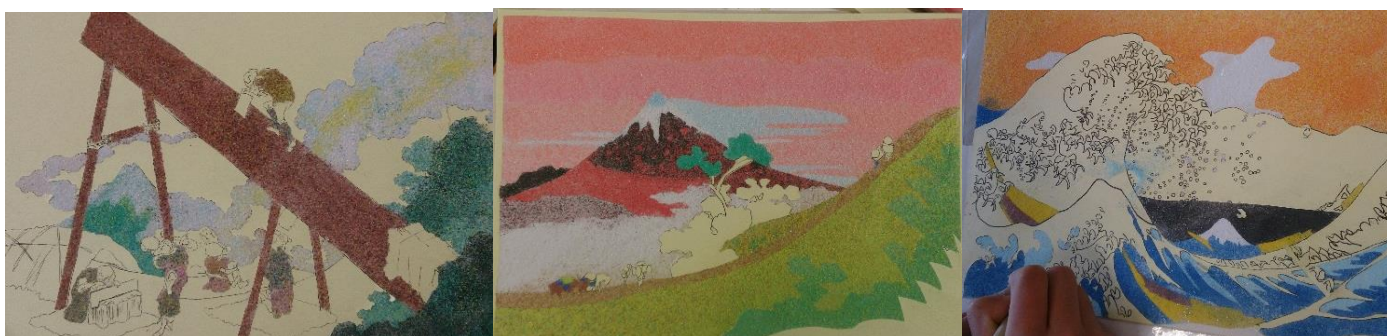
[作品]



② 「浮世絵を砂絵で表現しよう」

制作の前に浮世絵についての事前学習を十分に行った。その中で、浮世絵は絵師→彫師→刷師→版元の工程を経て完成するということを学んだ。本題材の狙いの一つは絵師から刷師までの工程を砂絵を使って疑似体験することにある。葛飾北斎の「富嶽三十六景」から好きなものを1枚選び、砂絵シートに描く（絵師）カッターで切り取る（彫師）砂絵で色をつける（刷師）という一連の工程を経て砂絵を完成させる。生徒一人一人が「富嶽三十六景」の美しさに気づき、その中で描かれている富士のある日本の風景の美しさ、江戸時代の人々を魅了した美的感覚などに気付かせた。

[作品（制作途中）]



生徒が制作をしている間は大きく拡大した富嶽三十六景の画像を黒板に掲示して、生徒が作品を見ながら作業を進められるようにした。着色の段階で生徒は砂を混ぜあわせるなどして、表現したい色を作る作業を楽しみながら制作を行っている様子だった。また、富嶽三十六景に描かれている様々なものにも興味を持っている様子で、「これは何だろう。」とお互いに聞きながら制作をしている様子が見受けられた。完成した作品は額装して廊下に掲示した。

生徒たちは掲示された作品を見ながら、同じ絵を選んでいても選択した色が微妙に違うなど、それぞれの表現の違いを見つけながら鑑賞している様子だった。

③ 金色の屏風に絵を描こう

本題材は3学年の1学期に実施した。修学旅行の事前学習として、日本人が大切にしてきた「金色の装飾」について琳派などを題材に鑑賞を行った。その後で「金色の屏風に絵を描こう」という題材を実施した。制作のテーマは日本人の美意識である「花鳥風月」を設定した。「花」と「鳥」、「風=季節」、「月」の美しさ分かる画像を見て想像力を膨らませてから、制作に入るようにした。

[作品]



修学旅行後に生徒に行ったアンケートには「京都や奈良のお寺や仏像には、様々な金の装飾が使われていることがわかった。」「仏像が神々しく見えるのは金色の影響だということが分かった。」というコメントが多く書かれていた。

④ 水墨画を描こう

本題材は2学年の2学期に実施した。最初は水墨画(墨絵)の歴史やどのように日本に伝わって広まったかを学習した。次にスケッチブックを使って、基本的な技法(積墨法・破墨法など)について学習を行った。

その後数十種類のサンプルの中から生徒が描きたいものを選ばせた。最初は鉛筆で何度かデッサンをして、その後スケッチブックに試し描きをした。慣れてきたところで色紙大の画用紙に描き、最終的には色紙に描いて作品を完成させた。この方法の良い点が生徒は何度も同じ題材を繰り返し描くので、自信を持って作品を描くことができる。反省点は発想に関する項目を見取ることが難しいことである。



生徒たちは墨のにじみに苦戦しながらも、試行錯誤しながら作品を描いていた。何度描いても上手くいかない生徒には違う題材を選択させたり、手本として教師が描いてみせるなどして、スムーズに制作ができるように指導を行った。

【研究テーマについての考察】

～日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深める表現と鑑賞の活動～というテーマで2年間に渡り、4つの題材を使って授業の実践を行った。本年度1学期三学年に実施したアンケートによると、

- ①（水墨画や屏風、和菓子や砂絵などの制作を通して）日本の美術文化について理解が深まった。・・・92%
- ②日本人の美意識（花鳥風月など）を身近に感じた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・84%
- ③水墨画・屏風・和菓子・砂絵の題材の中で、どれが一番作ってみて楽しかったか？
 - 水墨画・・・・・・・・12%
 - 屏風・・・・・・・・25%
 - 和菓子・・・・・・・・40%
 - 砂絵・・・・・・・・33%

理由：

- ・水墨画のにじみの表現が難しかったが、上手くいった時は綺麗な表現ができた。
- ・習字を習っているので、筆の使い方を上手く使って納得する絵を描くことができた。
- ・金色がゴージャスでかっこよかった。
- ・金を貼る作業が楽しかった。
- ・オリジナルの和菓子を考える作業が楽しかった。
- ・粘土に絵の具を混ぜて、和菓子を作る作業が楽しかった。
- ・色のついた砂を混ぜて、表現したい色を作るのが楽しかった。
- ・富嶽三十六景の凄さがわかった。江戸時代の作品のすばらしさがわかった。

- ④（水墨画や屏風、和菓子や砂絵などの制作を通して）日本が好きになった。・・・・・・・・・・69%

という結果になった。

教師側のねらいとして、

- ①日本人の四季に対する繊細な感覚に気付かせたい。
 - ②日本人に受け継がれてきた文化の重要性に気付かせたい。
- という2点を意識した。

作品完成後のアンケートでは

- 「身の回りにある様々な色から和菓子の色がつけられていることに気がついた。」
 - 「季節の中に綺麗な色が沢山あることに気がついた。」
 - 「水墨画や浮世絵があったから、日本はアニメーションの分野で世界でも有名になれたのかと思った。」
 - 「浮世絵は現代の漫画などによく似ているところがある。」
- というコメントが書かれていた。

反省点としては、

- ①要所要所でもう少し題材と日本文化についての関連性などを取り入れて理解を深めることができたのではないかと。
 - ②社会の授業と連携して、教科横断的な授業が実施できたのではないかと。
- が挙げられる。